

8/18 五夜

## 維新・馬場代表 危険な本質あらわ

日本維新の会の民主主義否定の姿勢が、改めて明らかになっています。馬場伸幸代表が、『Hana da』10月号で「日本共産党はなくなったらしい政党」という趣旨を繰り返したうえで、「なくなつたらいい政党」と私は政治家としての信念から申し上げた」と述べ、民主主義否定の発言を反論する立場か、「信念」だと主張しています。対立する主張や政党の存在そのものを否定する危険なファンシヨ的考え方を示すものであります。

「民主主義をどう思ってい るのか」(大竹まこと氏、8月25日、文化放送)など馬場氏の発言に多くのメディアや識者から危機感が表明されたのも当然です。

馬場氏は、批判について反論も反省も一切語らず、共産党は破防法対象団体などと違いを認めないとします。議会

いう破たん済みの議論を繰り返しています。

そもそも維新は、「日本維新の会」結成当時から、極端制民主主義は、考え方や政策の異なる政党が存在し、多様な意見を反映して政治を進めいくのです。政策など批判する権利はあります。一方で、党の存在そのものを否定する発言は、民主主義を根底から否定することになります。

「民主主義をどう思ってい るのか」(大竹まこと氏、8月25日、文化放送)など馬場氏の発言に多くのメディアや識者から危機感が表明されたのも当然でした。馬場氏が、民主主義否定の発言を「信念」には違憲・違法な「思想調査」など人権無視の暴挙などと見なすことはかけ離れたことばかりでした。馬場氏が、民主主義否定の発言を「信念」だとするのは、維新の本質だ

(若)